



もえた 萌多が丘だより

令和4年3月1日 第135号

平成28年度に創立70周年を迎えました。
一人ひとりの「学び」と「希望」を大切にする学校
長崎県立西彼杵高等学校



寒さも少しずつ和らぎ、春の訪れを感じられるようになりました。

さて、今月号では、第72回卒業証書授与式（卒業生41名）の「式辞」「送辞」「答辞」を掲載しております。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、卒業生とその保護者、在校生、職員のみで実施をいたしました。ご一読いただけましたら幸いです。



式辞

萌多が丘に吹きわたる春風も日ごとに温かさを増し、万物が新たな生命の躍動を開始する今日の佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、長崎県立西彼杵高等学校第72回卒業証書授与式を挙げていきますことは、まことに光栄であり、厚く御礼を申し上げます。

ただ今、卒業生41名の一人ひとりに卒業証書を授与いたしました。72回生の皆さん、卒業おめでとう。本日手にした卒業証書は、皆さん一人ひとりの高校3年間の努力と精進の成果であります。心からお祝いを申し上げます。振り返れば、あっという間の3年間だったのではないのでしょうか。勉学に部活動に学校行事にと励み、友情を育みながら今日まで成長してきました。決して楽しいことばかりではなく、悩み苦しんだこともあったと思います。しかし、西彼杵高校で学んだこの3年間は、まちがいなく皆さんのこれからの人生の大きな糧となっていくはずです。

今日を境に一人前の大人として、巣立つことになるわけですが、この人生の大きな節目を迎えることができたのは、自分一人だけの力ではなく、保護者をはじめとするたくさんの方々の支えがあったことを決して忘れてはいけません。今日という日は、感謝の気持ちを新たにすることもできる日でもあります。

また、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。高いところからではございますが、本校教職員を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。西彼杵高校での3年間は、お子様の目覚ましい変化や成長に、驚き、喜ぶ一方で、人知れず悩まれたり、眠れぬ夜を過ごされたりしたこともあったのではないのでしょうか。これまでのご苦勞に対して心から敬意を表しますとともに、重ねてお慶び申し上げます。

さて、巣立ちゆく卒業生の皆さんに、はなむけの言葉を送りたいと思います。

一つ目は、校訓である「誠実 克己 気迫」を大切にしてほしいということです。

「誠実」とは、真摯に学ぶ姿勢、ともに学ぶ他者を敬う姿勢、学ぶための思考力・思索力に通じます。

「克己」とは、自分に向き合いながら、ともに学ぶ仲間としての人間関係を育成する姿勢、コミュニケーション力を育てることです。

「気迫」とは、物事にひるまず立ち向かうことです。それが、他者に認知されて得る自己肯定感、平和で民主的な社会・地域の形成に貢献する実践行動力をつくっていきます。

この校訓を胸に、これからは自分で、自分をより成長させていき、社会に貢献してほしいと願っています。

二つ目は、「ふるさとを思う気持ちと人との出会い」を大切にしてほしいということです。

皆さんは本校での3年間、さまざまな形で地域の方々に出会い、それぞれのふるさとにふれる機会があったと思います。そのなかで、地域がさらに発展していくためには、これからも多くの方々の努力と思いが必要だということを学んだのではないのでしょうか。そのためにも、人との出会いを大切にしてください。これからの出会いを大切にするとともに、これまでの出会いを、友を大事にしてください。この西彼杵高校で出会った友を、そして西彼杵高校の先輩を、後輩を、大事にしてください。それがふるさとを大事にすることかもしれません。皆さんがどこでどんな仕事についたとしても支えてくれるのは、今隣に座っている友です。そしてまだ見ぬ友です。

三つ目は、「学び続けること」を大切にしてほしいということです。

3年間実施した「学びの共同体」とおして、さまざまなことを学びました。皆さんが学んだのは知識だけではありません。あらゆる教育活動とおして、主体的に考える力を養い、仲間と協力することの大切さ、意見が衝突したときの解決法も学んだはずです。皆さんにこれから必要なことは、これまで学んだ「学び方」や「他者との関わり方」などを常に活用しながら、「学び続けること」なのです。自分の進む道を自ら切り拓いてほしいと思います。

日本は、国際問題、環境、エネルギー、資源、医療、教育など、ありとあらゆる課題が山積みの、課題先進国と言われています。少子化が進み、超高齢化社会となった日本の中でも、特に、長崎県は「人口流出」という大きな課題を抱えています。一方、世界的な問題としては地球環境の異常な変化や、新型コロナウイルスなどによる感染症の世界的流行など、国境を越えて課題解決を図る必要がある問題もあります。

こうした諸課題に、どう向き合えばよいのでしょうか、どのような関わりや貢献ができるのでしょうか。残念ながら具体的な事はすぐには思い浮かびません。

しかし「課題こそ資源でありチャンスである」とよく言われます。課題や問題があるということは「伸びしろ」があるということです。今までも人間は常に目の前の課題を解決する事を繰り返し、世の中を発展させ続けてきました。「誠実」、「克己」、「気迫」の精神と、ふるさとを思う熱い気持ち、そして「学びの共同体」で培ってきた他者との協働力で皆さんが、世界にあふれるさまざまな課題や問題に対し、新たな未来を切り拓いていくことを期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、改めて心からのお祝いを申し上げますとともに、これまで本校の教育活動にご協力とご支援をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよお別れの時が来ました。歴史と伝統のある長崎県立西彼杵高等学校第72回卒業生の限りない前途に幸多からんことを心から祈念し、式辞といたします。



令和4年3月1日

長崎県立西彼杵高等学校長 北村 富啓

送 辞

あれほど厳しかった冬の寒さも、今では暖かな春の陽気になりました。教室に差し込む太陽の優しい光に、新しい季節の訪れを感じる今日のこの佳き日に、学び舎を巣立っていかれる3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

桜が咲き誇る中、真新しい制服に身を包んだ皆様がここ西彼杵高校の門をくぐられてから、はや3年の月日が経ちました。毎朝眠い目をこすりながら大瀬戸の海岸から続く坂道を登ってきたこと。短い休み時間ぎりぎりまで友達と騒いだ教室や廊下。肩を組んで笑い転げた日々。今、数えきれないほどたくさんの思い出が頭の中を駆け巡っているのではないのでしょうか。私たち在校生も、先輩方の旅立ちを前にして、共に過ごした日々が溢れんばかりに蘇って参ります。

最初に先輩方とかかわったのは部活動でした。私は卓球部に所属していますが、入部当初は、私たちよりずっと大人に見える先輩方と会話ができるのか不安でした。ですが、そんな私たちの不安を吹き飛ばしてくれるほどの明るい笑顔で、優しく丁寧に指導してくださいました。そして、休憩時間の雑談や試合会場に向かう車の中での会話などを通して先輩方のことを知るたびに、「感謝」と「憧れ」の気持ちは強くなりました。お陰様で、学校生活にも早く馴染むことができ、部活動がない日はとても寂しく感じられるほど、楽しさ溢れる日々でした。

学校行事でも、先輩方は私たちの憧れでした。年齢が一つ違うだけなのに、どれほどその背中が大きく見えたことでしょうか。行事のたびに先輩方の存在の大きさを知ることになりました。西瀧祭や体育祭では、新型コロナウイルスという未知の存在に社会や学校が翻弄され、行動が制約されるなか、持ち前の団結力と企画力を感じさせる素晴らしい姿を見せてくださいました。

体育祭は、時間短縮に加えて制限された種目による開催となりました。時間をかけて準備してきたことも一部実施ができなくなり、声を出すことも、仲間と手を取り合って盛り上げることもできず、悔しい思いをされたと思います。しかし、そのような思いを私たちに見せることなく、工夫を凝らしたダンスをはじめさまざまなことを教えてくださいました。なかなか覚えることができず、思うように行動できない私たちに、出来るようになるまで何度も丁寧に教えてくださいました先輩方。ブロックを一つにして引っ張っていく姿はいつもキラキラと輝いていました。行事で見せる団結力や新たなものを生み出す創造力は私たちの及ぶところではなく、どのような状況であっても、今できる最大限のことを前向きに行動することの大切さを学ばせていただきました。

そして、秋の深まりとともに訪れる西瀧祭。先輩方の姿を手本とし、今年は私たち2年生が中心となって作りました。実行委員長や部門長として企画、実行し、学校全体を引っ張っていくことに責任や苦勞を感じるなか、改めて先輩方の偉大さを感じました。相談をすると、自分の時間を割いて親身になって話を聞いてくださり、かけてくださる言葉の一つひとつに何度も励まされました。忙しさを感じつつも先輩方と創り上げていく西瀧祭は毎日が充実しており、次第に特別なものになっていきました。グランドフィナーレで緞帳が下がったときには、先輩方との行事がまた一つ終わってしまうことさみしさに溢れそうになる涙を必死に我慢しました。これまで私たちが成長できたのは先輩方の支えがあればこそと、感謝の気持ちでいっぱいです。

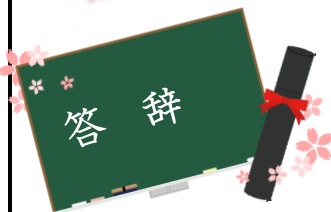
私たちよりずっと大人で、どんなことも軽々と乗り越えているように見えた先輩方。そのような先輩方にも、部活動だけでなく、勉強や人間関係がうまくいかず悩んだ時間があったことでしょう。新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、共通テストや就職試験の概要が大きく変わり、私たちが想像するよりも大変な思いをされてきたと思います。それでも放課後、学校が閉まるまで黙々と勉強に取り組む姿、面接などの練習で先生方からの指導を熱心に受ける姿など自分の進路実現のため、ひたむきに努力する姿は私たち後輩に大きな刺激を与えてくださいました。私たちの目の前にはいつも先輩方の姿がありました。目標であり、心の支えにもなっていた先輩方は私たちの誇りです。先輩方が残してくださった伝統や、目には見えない「心」の部分もしっかり受け継いで参ります。

新型コロナウイルスにより世の中の流れが一変し、「当たり前」が当たり前でなくなった社会。新しい生活様式が進み、人と人との繋がりが見えづらくなっている今、いかに適応していけるかが求められています。時には道が険しく、くじけそうになることもあると思います。そのような中でも、「学びの共同体」の精神で培った支え合いの心と行動力は、さまざまな場面で発揮されることと思います。共に過ごしたかけがえのない仲間や私たち後輩、先生方の笑顔思い出して、新たな道でも輝き続けてください。

名残は尽きませんが、お別れの時が近づいて参りました。卒業生の皆様方の今後ますますのご健康と、ご活躍を祈念申し上げ、送辞といたします。

令和4年3月1日

長崎県立西彼杵高等学校 在校生代表 富口 結乃



教室から見える海が、日に日に穏やかな色合いになり、春らしくやさしいきらめきを見せています。新型コロナ感染症がおさまらない中、私たちのためにこのような立派な卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。

3年前、私たちの高校生活が始まりました。入学式が終わりホッとした私たちが待っていたのは、3年生の先輩方によるセミナー研修でした。2日間、セミナーハウスに泊まり込んで、校歌の指導や、研心館五訓、挨拶返事など、西彼杵高生として大事なことを学びました。まだ慣れないクラスメイトとの活動でしたが、はずかしさを捨て、校歌や研心館五訓を声がかかるまで何度も練習しました。セミナー研修が終わったころには、クラスのまとまりも強くなり高生としての大きな一歩を踏み出すことができました。

学校の中心になった2年生。私たちの生活は変わっていきました。新型コロナウイルスの影響で学校に行けず、学校での学習や、部活動も思うようにできなくなり、みんなと過ごす大切な時間を奪われました。何よりも残念だったのは、一番楽しみにしていた修学旅行が中止になったことです。当初は、東京、長野に行き長野ではスキーをする予定でした。楽しみにしていた行事がコロナによって奪われてしまいとても悔しい気持ちでいっぱいでした。

しかし、私たちは、限られた中で精一杯行事に取り組みました。西湊祭での劇「歌がだいすき！」や「NEWS G」、実行委員としての活躍など、忙しくも充実していました。行事の中で、クラスや学年全体で一つのものにみんなで協力して取り組むことが多くなり、行事ごとに成長していくことができました。

3年生になり、最後の高総体が終わり、ようやく待ちに待った修学旅行がありました。ハウステンボスで友達みんなと自転車で走り回ったこと、ステーキを食べたこと、観覧車に乗って怖かったこと。大好きな友達と楽しい時間と最高の一日を過ごすことができました。

高総体、修学旅行が終わり、私たちは進路決定に向けて動き出しました。

就職するというざっくりとした考えしかなかった私は、はじめはとても焦りましたが、先生方と話し希望を決めていきました。そこからは毎日先生方や友達に協力してもらいながら面接練習や、就職試験のための勉強に励みました。上手いかず悩んだ日もありましたが、クラス全体で支えあいながら全員の進路決定に向けて最後までやり遂げることができました。支えてくれた友達や先生方には感謝しています。

私にとって高校生活は部活動である「サッカー」が中心でした。初めての高総体は、「県ベスト8」を目標に先輩方と試合に出場しました。結果はベスト8まであと一歩のところでした。PK戦で敗れ、悔し涙を流す先輩たちの姿に、次は自分たちがこの目標を達成しようと決意しました。

2年生になって迎えた高総体。今回こそ目標を達成するために練習を重ねていた私たちでしたが、新型コロナウイルスの影響により高総体中止が決まりました。先輩方と一緒にサッカーをできない悔しさと、私たちがサッカーをプレーできていた状況は当たり前ではないということを経験を通して痛感しました。

3年生での最後の高総体。新チームとなり私はキャプテンになりました。これまで3年間共に活動してきた同級生6人と新入生を合わせた8人で試合に臨み、最後の高総体を戦うことができました。試合開始時点から3人少ないというハンデがありました。人数が少ないと、練習メニューも限られてくるし、試合でもずっと走りっぱなしで大変なことも多かったです。夏の暑い日、冬の寒い日、あきらめそうになった日、たくさんのきついこともありました。でも、おかげで、互いに思いやることが多く、メンバーの絆が深まりました。試合中も、きつくても最後までやりきる強さを手に入れました。一緒に練習する仲間と支えあって、声を掛け合っ
てみんなで成長し、最高の仲間と最高の舞台で最高の思い出を作ることができました。

今、西彼杵高校は生徒数が少なくなってきました。でも、だからこそ、成長することや、仲間との絆を深めることができます。だからこそ、みんなが行事の主役になることができます。後輩の皆さん、この西彼杵高校を、これからも盛り上げていってください。

えらそうなことを述べましたが、私たちは、決して模範的な学年ではありませんでした。生活上のこと、学習のこと、人間関係のこと、先生方にはたくさん叱られ、指導していただきました。

でも、挨拶や返事など基本的なことから、進路に関わる専門的なことまで、先生方に根気強く導いていただいたおかげで、無事、卒業の日を迎えることができました。先生方、ありがとうございました。

そして何より、家族にはとても感謝しています。毎日弁当をつくってくれたこと。試合や休日には学校や会場に送り迎えしてくれたこと。ときに反抗的な態度をとったり、沢山の迷惑をかけてしまったり、心配をかけたこともありました。しかし、家族の支えがあったからこそ、全員が、晴れて卒業の日を迎えることができました。これからは、私たちが家族の支えとなれるよう、それぞれの進路で自分自身の持っている力を十分に発揮し、これまでとは違う厳しい社会の中でも挫けることなく、壁を乗り越えていきます。そして、今まで支えてくれた家族に成長した姿を見せられるよう、日々努力をしていくので、それまで元気で待っていてください。

いよいよ、別れの時が近づいてきました。海が私たちの高校生活をいつも包みこんでくれました。私たちは、これから、それぞれの人生の船をこぎだしていきます。どんな嵐に合っても、方向を見失っても、ここ、西彼杵高校で学んだことを胸に、精いっぱい、舵を取り、進み続けます。

最後になりましたが、私たちの母校、西彼杵高校がますます発展することを祈って、答辞といたします。



令和4年3月1日

長崎県立西彼杵高等学校 第72回卒業生代表 永田 陽也

3月の主な行事予定

※ 現時点での予定です。今後の状況によっては、変更になることがあります。



3/1	火	第72回卒業証書授与式 部活動夏時間開始	3/17	木	1・2年写真撮影 合格者オリエンテーション
3/2	水	進学講演会 (2-1)	3/18	金	生徒総会
3/5	土	生徒会交流イベント (オンライン)	3/23	水	球技大会 校外清掃
3/8	火	後期選抜 (~9日) 生徒自宅学習 (~10日)	3/24	木	終業式 離任任式
3/14	月	2年セミナー研修			

☆「萌多が丘だより」カラー版を学校ホームページに掲載しております。

<http://www2.news.ed.jp/section/nishisonogi-h/index.html>

